

加美 パラ事前合宿地ひと安心

除菌ロボで コロナ対策

東京パラリンピックのチリ代表が事前合宿する加美町で、清掃会社「TLS仙台」(仙台市泉区)が、新型コロナウイルス感染症防止対策の除菌作業に協力し、選手たちの活躍に向けサポートしている。

8日に始まった事前合宿に先立ち、TLS仙台の社員らが6日、トレーニング会場となる中新田B&G海洋センターに無人で除菌する装置を運び込んだ。高さ158センチあり、ミスト状の次亜塩素酸水を噴霧しながら移動し、室内をくまなく除菌する。

除菌作業を無人で行うため、感染リスクを抑える利点がある。TLSの取引先で除菌液製造などを行う「ユニトライク」(新潟

仙台の清掃会社 提供

市)が開発した。「無人航行除菌合体ロボフルテラG」の名称で全国で利用されており、今回は無償提供した。

TLS営業部の橋聖五部長(58)は1964年の前回東京大会にちなんで名付けられたという。「五輪に縁があり、協力できるのは光栄だ。メダル候補の選手もいるそうなので、ぜひ活躍してほしい」と願う。

加美町は東京パラのホストタウンで、パラカヌーとパラ陸上の選手4人を含む選手団12人の事前合宿を27日まで受け入れる。町スポーツ推進室の鎌田裕充さんは「合宿中のコロナ感染リスクを減らしたい」と話した。



トレーニングルームで次亜塩素酸水を噴霧する除菌ロボと橘さん=中新田B&G海洋センター